

## 創刊にあたって

二〇一四年四月一日、佛教大学は新たな附置機関として、法然仏教学研究センターを開設いたしました。

本学は、二〇一二年に開学一〇〇周年を迎えましたが、その際、私たちは一〇年後の大学像として「佛大Vision 2022」を公表しました。このビジョンの中で、「建学の理念に基づき法然上人の教えを体現するための大学としての使命と二〇〇年にわたる歴史を踏まえた特色ある研究を推進する大学」たることを目標の一つとしました。さらに、具体的な取り組み内容として、大学の使命に即した特定研究を推進するために「法然仏教学研究センター」を設置することを明示しました。

この計画に基づき、まず二〇一三年度に佛教大学総合研究所の「常設研究」として、「法然仏教の多角的研究」をスタートさせました。この研究班の活動を基盤とし、研究活動を継承することで当初の予定よりも早く、二〇一四年四月に「佛教大学法然仏教学研究センター」を無事に開設することができました。法然仏教学研究センターは、このビジョンに基づき、もっぱら法然上人に関わる研究を行う世界初の研究センターとして開設されたものであります。

佛教大学は、仏教精神を建学の理念とし、大学の責務である「人材養成」を中心として、それに関わる「教育」「研究」「社会貢献」の三領域において、仏教精神に基づく多様な活動を時代に即して行いながら、世界文化の向上と人類福祉の増進に貢献することを使命としております。社会の要請に応えることができる優れた教育を展開するためには、その基盤となる研究の充実が必要であることは言うまでもありません。特に、法然上人のみ教えを大学設置の根幹とし、仏教思想とりわけ法然上人の思想に立脚した教育を基底に位置付け、そのもとで有為な人材の輩出を目指す佛教大学にとって、本研究センターはきわめて重要な意味をもつ機関であります。

本研究センターでは、浄土学を中心に、仏教学、人文科学、社会科学、自然科学にわたる広い視点から法然仏教学の総合的な学術研究を行ない、もって文化の発展に寄与することを基本的な目的とします。具体的には、以下の通り、センター内に三つの部門を組織し、その下で基礎研究を進める体制をとっています。

第一部門 法然の教義解明と『選択本願念仏集』などを中心とする基礎研究

第二部門 浄土宗高祖善導、二祖聖光、三祖良忠等、浄土宗の思想伝統の研究と周辺宗教者の研究

第三部門 浄土宗における僧侶養成（伝法）、教育・教化の研究

さらに、各部門の中に研究班を設け、それぞれに基礎研究が進められています。

このようにしてスタートした、法然仏教学研究センターの現在までの取り組み状況を踏まえ、今回あらたに『法然仏教学研究センター紀要』を発刊する運びとなりました。本号には、各部門で研究を推進している研究員ならびに嘱託研究員による最新の研究成果を掲載することができました。あわせて、七月に開催しました、本研究センターの開設記念シンポジウムの内容も掲載いたしました。

これら法然仏教学研究センターの研究成果や活動状況の公表は、法然仏教学の確立ならびに優れた法然研究者の育成という本研究センターが掲げる目標の達成に向けた、重要な取り組みの一つであります。本号を出発点とし、今後さらに各部門に属する研究班の研究の一層の進展と、優れた研究成果の発表が綿々と続くよう、本研究センターの運営につとめてまいります。関係各位の、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

佛教大学学長  
佛教大学法然仏教学研究センター長 山 極 伸 之